

地域の力がみなぎる！

～関係者にお話を伺いました～

市民の手づくりのお祭り

今年で12回目

「はむらふるさと祭り」

ふるさと祭り

Q&A



実行委員のみなさん

Q 12回目を迎える「ふるさと祭り」、どういう経緯から始まったのですか？

A 第1回は、小作駅前前の金刀比羅神社100年祭のお祭りと、青少年の健全育成への取組みを合わせ、地元のお店が、子供を中心にした祭りを企画したのが始まりです。第2回目からは、はむら夏まつりが羽村駅周辺で開催されたのを受けて、小作駅前にもお祭り（商店会活性）ができれば、それも子供たちを中心とした祭りがしたいとの町内会

長の想いから今の形になりました。

Q よさこいソーランがメインのようですが、その理由は？

A 学校の荒廃が問題化し、ソーランで学校を立て直すという映画がありました。原宿スーパージョッキーを見学し、出演してくれる団体をその場で交渉し、子供たちにも受け入れやすい踊りということでソーランを取り入れました。

Q 市民の手づくりのお祭りですが、実行委員長さんはじめ皆さんの一番のご苦労は？

A 資金の調達です。実行委員で班を作り、近隣のお店、企業、個人などを訪問し、協賛金をいただいています。

この他、羽村市と商工会から補助金を受けています。また、プログラム作りも大変です。出演団体の希望に合わせたり、連絡調整にも手間隙をかけています。

Q 何人位の皆さんが関わっているのですか？

A 小作・栄地区の5町内

会から実行委員を推薦してもらいます。

役割分担をして、各担当を中心に確認をします。交通看板の設置、撤去、会場設営（雨天時には、エアードームを設置）、当日は、出演者の車の誘導や、持ち込まれた音楽CDの受け渡し、模擬店の確認など、様々な配置で約70名の実行委員が、2日間、関わっています。

Q 毎年、いつごろから準備を始めるのですか？

A 4月には最初の企画委員会を始めます。6月には実行委員が出揃い、ここで実行委員長などを決めていきます。

Q 開催資金は、どのようにして集めているのですか？

A 先ほども少し述べましたが、実行委員が、班編成し、自分たちの町内を中心に、商店、企業などを訪問し、協賛金をいただいています。

プログラムの中に、協賛をいただいた商店、企業、個人の皆さんの広告を掲載しています。近隣の多くの

皆さんに、計りれない協力いただいています。

Q 参加団体は、どのようにして集めているのですか？

A 近隣の市町村で、ソーランを中心に活動をしている団体に声をかけています。今では、遠くは鶴ヶ島市からも参加くださいます。

声をかける際には、青少年の健全育成、国際交流、商店の活性化、住民の交流を軸に団体を選ぶようにしています。この視点は、なるべくぶれないように考えています。

今では、地元にもソーランの団体が出来ました。



メイン会場の様子